

平成 24 年度 活動方針

直江津港は、地域経済を支える重要な基盤として整備が進められてきた。昨年は、コンテナヤード拡張の整備、第3東防波堤の築堤がそれぞれ完了している。

また本年7月には、中部電力㈱のLNG火力発電所が営業運転を開始する予定であり、平成26年の運転開始を目指し着々と建設が進められる国際石油開発帝石㈱LNG受入基地と合わせ、エネルギー港湾としての発展が大いに期待される。

こうした施設整備を背景として、昨年11月にLNG部門の「日本海側拠点港」として国から選定を受けたことは、今後の港の発展のために望ましく、積極的に生かしていきたい。

取扱量全体については、東日本大震災により経済全般にマイナスの影響があったにも関わらず、総貨物取扱量では、2,339,946 t、対前年比7.7%と一昨年につづき増加している。またコンテナ貨物取扱量は26,297TEUと2年連続で過去最高を記録しているものの、選択と集中に基づく国の港湾政策による港湾間競争は激しさを増しており、港を取り巻く環境は依然として厳しい。

このような状況下ではあるが、コンテナ定期航路の充実やその他内航、外航貨物の取扱量の拡大を目指し、さらには、エネルギー港湾としての拠点港選定を契機に、直江津港の優位性・将来性を長野県等後背地域に強くアピールしながら利用促進活動に取り組むことが重要である。

また、港は人や物が集まる場であることから、賑わいや交流をつくりだすことも期待されており、地域の活性化のためにも重要な施設ということが出来る。

以上を踏まえ、当協会では次の事項を重点目標に掲げ、関係者が一致協力して活動を展開する。

重点目標

- 1：直江津港港湾計画の促進
 - エネルギー港湾としての整備促進など
- 2：直江津港の利用促進
 - 地域産業との結びつきを強めたポートセールスの実施
 - 長野県や近隣地域との連携による利用促進
 - 国内フェリー航路に関する情報収集
 - 動物検疫対象品目の取扱いに向けたポートセールス
- 3：国際定期コンテナ航路の拡充とコンテナ荷役施設の充実
- 4：国の港湾施策に関する情報収集及び要望活動
- 5：小木直江津航路の活性化及び安定運航
- 6：直江津港の交流拠点としてのにぎわい創出